

患者を具体的にイメージできること それが究極の薬学教育だと信じています

金城学院大学薬学部の新設業務にも携わった網岡先生は、医薬品メーカー、救命救急センター、厚生省など多くの経歴の持ち主でもあります。薬剤師として、様々な現場で活躍してこられた網岡先生にこれまでの歩みをお聞きしました。



金城学院大学 薬学部 薬学科

網岡 克雄 准教授

- 名城大学薬学部薬学科卒業
- 三和化学研究所 研究開発部 勤務
- 国立名古屋病院 救命救急センター 勤務
- 厚生省（現厚生労働省）薬務局 安全課 医薬品適正使用推進室 適正使用指導官
- 厚生省（現厚生労働省）保険局 医療課 特別医療指導監査官
- スイショー薬局調剤センター 部長
- 金城学院大学消費生活科学研究所
- 金城学院大学薬学部薬学科

- 専門分野／医療薬学、医療経済学、薬事法
- 研究課題／医療経済学としての医療保険制度

薬学の本当の

魅力を知った研究職

大学生のころはバレーボール部に所属していて、毎日バレーボールに打ち込んでいました。実は、本格的に薬学の魅力に取り付かれたのは、大学を卒業してからなんです。

大学を卒業してすぐに、医薬品メーカーの研究所に就職して、新薬を開発するという仕事を始めました。先輩方が「新薬を作って、それを出した瞬間に何万、何十万という人が助かるんだ」と熱く語

るのを聞きながら新薬の開発に没頭する中で、「薬学はすごい学問なんだ」と改めて感じたのです。それからは、最新の論文を読むなどして、大学での試験の為の勉強というのとは違う意味で猛烈に勉強をしました。

人生を劇的に変えた

救命救急センターでの勤務

その後、国立名古屋病院に勤務することになりました。ここでは精神科の病棟や救命救急センターでドクターや看護師と一緒に医療に携わりました。特に救命救急セ

ンターでは臨床薬剤師として3年間センターに張り付いて働きました。

救命救急センターというところはとても過酷な現場で、毎日患者さんが亡くなります。すでに心肺停止した方が運ばれてくることも稀ではありません。そこで、蘇生を手伝ったり、患者さんの痛みを和らげるために薬を処方したりしました。

おそらく私の人生を劇的に変えたのはこの救命救急センターだと思います。毎日人が死んでいくのを目の当たりにしながら、「死」というものを真正面から受け止めなければなりません。人間が死ぬ時というのは、突然ではなく「徐々に」死んでいくのです。例えば臭いがし始めたり、肌が土色に変わっていったり…。それを見たときには、やはり人生観が変わりました。薬剤師としてもっとできることがあったのではないかと後悔もしました。

そのような毎日を過ごす中で、患者さんを助けたいという思いがどんどん強くなり、そのために自分は何ができるのかと考え、勉強して知識を増やしたり、ドクターを説得するためのコミュニケーションを身につけたりしていきました。

患者さんの顔をイメージできる

薬剤師を目指して欲しい

その後は、厚生省で医薬品の安全対策のための仕事をしました。薬の副作用をまとめて、全国のドクターに注意を促し、企業には医薬品に必ずついている添付文書の



網岡先生が執筆されている情報誌「pharmavision」

改定を指示するというのが主な仕事です。

このように、私はこれまで様々な職に就きましたが、最初に薬学を志した時は、「新しい薬を作って多くの人を治す」という医療、次には現場で「目の前の患者さんを助ける」という医療を行いました。また、厚生省ではさらに広く「国民全体に対しての医療行政」を提供してきました。これらはどれも、最後には患者さんにつながる仕事です。

薬剤師には、病院、薬局、研究者、医薬情報担当者など様々な仕事がありますが、薬に関わるすべての人が、自分の仕事を通して具体的に患者さんの顔や表情、その人の悩みやつらさといったことをイメージしながら働くことで、医

療はさらに進化すると思います。すべての勉強、すべての仕事は患者さんにつながっています。ですから、金城学院大学で学ぶ薬学部生にも、患者さんを具体的にイメージできる薬剤師になって欲しいと思います。



ゴルフが趣味の網岡先生。金城杯では見事優勝しました！

網岡先生はこんな人

若くてカッコいい網岡先生は、いつも優しく指導してくださいませ。また、先生の授業は先生ご自身の豊富な実体験をもとに話してくださるので、とてもわかりやすく、教科書を読むだけでは理解できないことも、納得できます。特に、病院・薬局で働いていたときのお話からは、患者さんの表情をきちんと見るということや薬剤師としての仕事の内容など、実践的なことを学ぶことができます。

勉強以外でも、就職活動の応援をしてくださったり、とても頼りになる先生です。



網岡ゼミ4年生の皆さん。